

Spiritualism News Letter

1998
創刊号

4月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行/スピリチュアリズム・サークル 心の道場 発行人/小池里予 〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1 TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257
ホームページアドレス <http://www.5abiglobe.ne.jp/~spk/>

スピリチュアリズムは学問ではありません 靈的真理にもとづく実践的な生き方なのです

スピリチュアリズムの明かした靈的真理と出会い、そこに歴史的意義を見だしてスピリチュアリストとなったことは、とても素晴らしいことです。スピリチュアリズムを本物と認めることができた背景に、靈界からの導きがあることは誰しもがよく知っています。では皆さんは、その導きにふさわしい良きスピリチュアリストになっていらっしゃるでしょうか？ ここでもう一度、スピリチュアリズムの原点に返って、私達の在り方を見つめ直してみませんか。

皆さんはスピリチュアリストとして、毎日どのような意識を持って生活していらっしゃるでしょうか。靈的真理にそって自分の心を高めるための努力を、実際の生活にどれほど役立てていらっしゃるでしょうか。

◎ 物欲のとりこになりがちな心を“靈の言葉”で戒め、自分自身の内面の成長を心がけていますか？

◎ 人生の中で何か問題があった時に、真理とは無縁な人に相談したり、この世的な解決方法を考えるのではなく、靈的真理に照らし合わせて正しく乗り越えようとしていますか？

◎ 心霊現象に興味を持ち、いまだにリーディングやあの世からの託宣に従って人生を考えている人も多いようですが、皆さんはそうした現象だけにとらわれていませんか？

シルバーバーチファンと自称される方も大勢いらっしゃると思いますが、シルバーバーチが繰り返し訴えかけていることを真剣に実践することが必要です。もし靈的真理を真っ先に知った私達が、真理を頭の中の知識だけにとどめて自分の心の戒めや人生の指針とすることなく、実生活でそれを役立てなかったとしたら、聖句にある“ブタに真珠”ということになってしまいます。

次にあげるシルバーバーチの言葉をかみしめてみましょう。

靈の優位性の自覚にもとづく修養的生活— これが最高の生き方です。既成のテキストはいりません。魂の成長ということだけを心がければいいのです。
(愛の力)

シルバーバーチは、「スピリチュアリズムの敵はスピリチュアリズムの中にある。スピリチュアリズムの発展を阻む最大の原因はスピリチュアリストの内容のお粗末さにある」という意味のことを言っています。一般の人が知らないスピリチュアリズムの

知識を自分だけが真っ先に知っていると考え、思い上がっている人を見かけます。靈的知識は本当はその人間の心を深くし謙虚にするものですが、内省的な努力がないところでは、スピリチュアリズムの知識も単なる傲慢さや自己主張の道具となってしまうのです。靈能力についても同じことが言えます。他人にない能力を持ったということで、その人間が傲慢になることがよくあります。そうした靈能者は、靈的真理を何も知らずに反対するこの世の唯物論者よりもスピリチュアリズムにはマイナスなのです。

たとえ何十年もスピリチュアリズムに係わってきたとしても、どれだけ本を書いたとしても、何千何万人の治療をしたとしても、また自分のリーディングがどれほど当たるとの評判を得ていたとしても、それだけでは何ら価値のあるものではありません。もし内省的な努力が常に並行してなされていないとしたら、真理を知った意味がないのです。本来ならば最も高い世界を求めるべきなのに、内省的な姿勢と謙虚さの欠如のために、クリスチャンや新興宗教に係わる人達よりも靈的に劣る、ということにもなりかねないのです。

スピリチュアリズムは学問ではないのです。スピリチュアリズムは信仰ではないと考え違いをされている方が多いようです。シルバーバーチもスピリチュアリズムは信仰ではないという言い方をすることがありますが、それはスピリチュアリズムは従来の

ような信仰（盲信的信仰、事実にもとづかない信仰）とは違う、ということをおっしゃったのであって、スピリチュアリズムの本質が信仰であることを否定したわけではありません。高級靈訓の思想は、これまで地上になかった高次元の信仰を人類にもたらそうとしたことに尽きます。知識はそのための不可欠な手段と考えるべきなのです。シルバーバーチをはじめとする高級靈の説くところは、内省・自己反省であり、無償の奉仕であり、エゴとの闘いであり、神への祈りであり、利他愛の実践であり、全てが信仰的内容なのです。真理を知って、それだけでよしとするような姿勢に対しては、むしろ、それをエゴとして考えているのです。スピリチュアリズムはキリスト教にもない、さらに高い次元の真理の上に立つ信仰なのです。

知っているということと、それを応用することとは別問題です。知識は実生活に活用しなければなりません。〈シルバーバーチの靈訓・3〉

靈性は書物からは得られません。先生が授けるものでもありません。自分自身の生活の中で、実際の行為によって体得しなければなりません。〈シルバーバーチの靈訓・1〉

靈的真理を指針として、真のスピリチュアリストを目指して歩んで行こうではありませんか！



スピリチュアリストとしての霊的实践は、 霊優位のための自己コントロールから始まります

『シルバーバーチの霊訓』『モーゼスの霊訓』『アラン・カルデックの霊の書』に代表される三大高級霊訓は、人類が手にした最高の真理と言えるでしょう。まさしく人類の宝と言うべきもので、これ以上の真理はないと言ってもよいでしょう。そして、これらを正しく理解することで、私達は人類史上最高の叡知を得ることになるのです。

とは言っても、こうした霊訓のいずれもが膨大な量から成り立っており、それを全体的・総合的に理解するということはとても難しいことです。『シルバーバーチの霊訓』に心を引かれ、すでに何度も読み返したという方であっても、全体を体系的に把握しているのではなく、自分の気に入った部分だけを知っている、というのが実情ではないでしょうか。しかし部分だけを知ったのでは、シルバーバーチを真に理解したことにはならないでしょう。

優れた霊訓は、真理に関する部分と実践に関する部分から成り立っています。すなわち理論と実践の二面を持っているということです。私達が高級霊訓を正しく理解するためには、理論に関する知識のアウトライン（全体像）と、実践に関する知識のアウトライン（全体像）を知らなければなりません。またそれは、他の人に真理を伝えるためにも、どうしても必要なことなのです。その全体について体系的にしっかり把握してみましょう。

高級霊訓に示される実践的内容は、大きく次の四つにまとめられるでしょう。当然これは、私達が魂を成長させるための実践項目でもあります。

- ① 霊優位のための自己コントロール
(霊主肉従の努力)
- ② 苦しみへの正しい対処
- ③ 利他愛の実践 (人を正しく愛する)
- ④ 霊的世界とのストレートな交わり (瞑想・祈り)

この四つの中に、霊訓によって明かされた魂の成長（霊的成長）のための実践内容が全て含まれています。

①の霊優位のための自己コントロール（霊主肉従の努力）とは、物質中心の生き方をしないということです。地上生活は魂を成長させるためにあるのですが、地上では肉体を持っているため霊の心と本能的な心が葛藤し、どうしても本能的な思いに引きずられがちになります。が、魂の成長は、霊の心が本能（物質欲・肉欲）をコントロールした霊優位の状態であってはじめてなされるものです。

自分の心を高めようと闘ったことのある方なら、肉体を持つことの重さをイヤというほど知っていらっしゃるでしょう。どれほど肉体の力が強いものであるかは、清らかさを求める方ならば痛いほど分かっていることと思います。人類史上の宗教者の苦悩・信仰者の苦悩とは、この“霊肉の闘い”という一つの言葉で包括されてしまうのです。そしてまた、従来宗教での数多くの修業方法も、肉体をコントロールして霊的な意識を優位にするための手段ということで説明されてしまうのです。断食・山中での隠遁・水行・さまざまな戒律、これらは全て肉欲の放縦に歯止めをかけて、霊優位の状態をつ

くりだすための手段だったのです。

霊の意識を優位にして本能的思いをコントロールすることを“霊主肉従”と言いますが、この霊主肉従こそ、魂成長のための大前提です。けれども地上生活を送る大半の人々は、よほどの厳しい内省的闘いをしていない限り、“肉主霊従”（霊主肉従の反対）という状態に陥ってしまいます。そうした状態では、物質欲だけに翻弄され、エゴ的思いが心を支配するようになります。それは霊的価値から見ると、本能だけで生きる動物と等しいことなのです。地上の人間は霊主肉従であってこそ、はじめて動物と違った崇高な価値を持てるのですが、残念なことに、大半の人々は肉主霊従の状態にあることが多く、地上生活で積極的に魂を高めることができません。

スピリチュアリストとしての私達が魂の成長をなすためには、自分が今、霊主肉従の状態なのか肉主霊従の状態であるのか、ハッキリと知らなければなりません。自分の心の状態をみきわめる敏感な感性がぜひとも必要なのです。私達が霊主肉従の状態にある時には、十分な霊的エネルギーが受け入れられ、心はすがすがしく、清らかな思い・愛の思い・大きな心が持てるようになります。反対に肉主霊従の状態にあると、心は暗くなり、重苦しくどんよりとして、スッキリとすることができなくなります。また人に対する批判的な思いが湧き上がり、自分の利益だけを先に求めるようになります。

たとえ真理を知った私達であっても、意識的に高い心境を持ち続けようと努力しない限り、動物と等しいところに落ちてしまうのです。このことは霊能者においても当てはまります。自己コントロールの努力を怠る霊能者やヒーラーは、いつの間にか肉主霊従となり、低級霊のもっとも格好な餌食になってしまうのです。霊能者やヒーラーの生命線（善霊の働きかけを受けるのか、低級霊の支配を受けるのか）は、この霊主肉従のための努力にかかっているのです。普通の人以上に、さらに厳しい自己コントロールの努力が要求されるのです。

スピリチュアリストとしての霊的实践の出発点は、この霊主肉従のための努力です。霊的コントロールの重要性について、シルバーパーチ、モーゼスの霊訓の中から見てください。

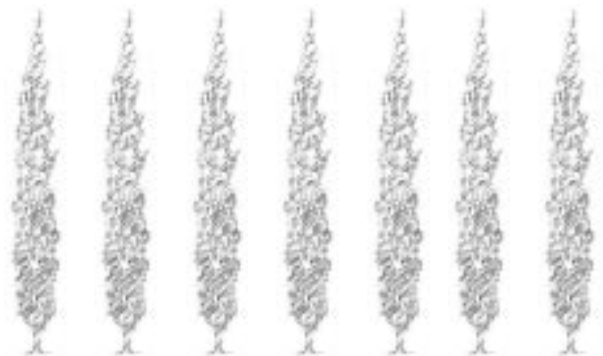
現今のように物質性が勝り霊性が劣る状態から、逆に霊性が物質性を凌ぐまでに発達してくれば、霊界からの指導も随分楽になることでしょう。それは、間をつなぐものが霊と霊の関係になるからです。しかし残念ながら大部分の地上の人間においては、その霊があまりに奥に押し込められ、芽をだす機会がなく、潜在的な状態のままに放置されております。これではよほどの努力をしないかぎり覚醒は得られません。

〈シルバーパーチの霊訓・1〉

騒々しい世間はとかく霊的なものを拒絶するものです。人間は物的なもの、すなわち目に見え、手に触れ、貯えることのできるものに心を奪われ、死後に霊的生活が待ちうけていることを知りません。あまりに地上的になりすぎ、われわれの働きかけに無感覚になっています。あまりに地臭が強すぎて、われわれも近づくことさえできません。暮らしがあまりに地上的打算に満ちているために、死後にも価値の残るものに心を配る余裕がなくなっていきます。

〈モーゼスの霊訓・上〉

ここでは魂成長のための四つの実践内容のうち、一つ目の霊優位のための自己コントロールについて見てきました。今述べたような観点から、もう一度、霊訓を読み返してみてください。かなり整理されることと思います。



❖ スピリチュアリズム・ライブラリー ❖

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

- ◆スピリチュアリズム入門 (169頁)
ースピリチュアリズムが明かすー「心霊現象のメカニズム&すばらしい死後の世界」
- ◆続スピリチュアリズム入門 (256頁)
ー高級霊訓が明かすー「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」
- ◆スピリチュアリズムの真髄「現象編」 (297頁)
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳
- ◆スピリチュアリズムの真髄「思想編」 (357頁)
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳
- ◆500に及ぶあの世からの現地報告 (437頁)
ーエクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活ー
『Life After Death』 ネヴィレ・ランドル著／小池 英 訳
- ◆マイヤースの通信ー永遠の大道 (全訳) (271頁)
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著／近藤千雄 訳
- 〈今後の出版予定〉
- ◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方 (全訳)
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓 (仮題)
『Teachings of Silver Birch』 (全訳) A. W. オースティン編／近藤千雄 訳
- 〈現在絶版となっている書籍の復刻予定〉
- ◆シルバーバーチの霊訓 (仮題) 『A Voice in the Wilderness』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓 (仮題) 『The Seed of Truth』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓 (仮題) 『The Spirit Speaks』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (上・下) 『The Spirit Teachings』
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳
- ◆ジャック・ウェバーの霊現象 『The Mediumship of Jack Webber』
ハリー・エドワーズ著／近藤千雄 訳

⇒ 今回のセレクション ⇨

◆スピリチュアリズムの真髄「思想編」(The Spirits' Book) アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳

カルデックによる『霊の書』は、シルバーバーチの霊訓、モーゼスの霊訓と並ぶ最高級レベルの霊訓です。まさしく人類にとっての宝、スピリチュアリズムの三大霊訓と言えるものです。スピリチュアリズムの翻訳家として著名な近藤千雄氏が、これまでの体験とエネルギーを傾注して完成した珠玉の一冊。日本各地より、感謝と感動の声が殺到しています。シルバーバーチの霊訓につぐ、我が国スピリチュアリズム界にとっての第一級の霊訓です。

本書は当時のスピリチュアリズム研究者であった仏人アラン・カルデックが、通信霊、聖ルイにありとあらゆる質問を投げかけ、これに対する答えを得るという形で進められています。そのため、スピリチュアリズムの細部にわたるまで実に手にとるように明らかにされ、スピリチュアリズムの真理の全てが理解されるようになっていきます。シルバーバーチの霊訓やモーゼスの霊訓とは、また一味違った霊界通信であり、霊的世界および霊的真理の詳細を知ることができます。

シルバーバーチの霊訓とモーゼスの霊訓がイギリスにおいて受信されたものであるのに対し、この霊訓はフランスで受信されました。これらの三つの霊訓はどれも世界的にヒットしましたが、『霊の書』は仏語で書かれたため、ラテン諸国ならびに南米諸国で大ヒットして今日まで多くの人々に読み継がれています。三つの霊訓の中では、この霊訓が年代的に最も古く、1857年に出版されています。ハイズビル事件におけるスピリチュアリズム勃興後の最初の本格的霊界通信です。

